

たぐすい

JFグループ兵庫



特集 令和7年 年始のご挨拶

CONTENTS

- 2 新年のご挨拶
- 6 突々 淳氏が兵庫県自治賞を受賞／
令和6年度兵庫県水産賞受賞者決定／
JF兵庫漁連 第49回通常総会 開催
- 7 虹の仲間で森づくり／
兵庫県水産振興議員連盟役員との懇談会開催
- 8 ようそろ／一次産業現地学習会の開催
- 9 兵庫 JCC 通信／協同組合理人養成講座の開催
- 10 SEATCLUB 魚介レシピ

新年のご挨拶

躍動する兵庫へ さらなる挑戦

兵庫県知事

齋藤元彦



新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様のご負託をいただき、昨年11月より知事として2期目のスタートを切りました。新たな施策や改革に取り組んだ1期目の挑戦を緩めることなく、兵庫の未来を切り拓いていきます。

第1は、若者が輝く兵庫づくり。教育費の負担軽減や教育環境の充実、不登校対策の強化、不妊治療支援の充実など、若者の不安を解消し、一人ひとりが力を発揮できる環境を整えます。

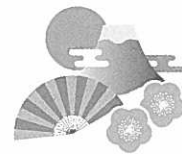
第2は、誰もが活躍できる兵庫づくり。万博を機に、地場産業や農業、芸術文化など県内各地の活動現場へ国内外から多くの人々を誘うひょうごフィールドバビリオンのほか、次世代産業や有機農業の振興など、多様な活躍の場を広げます。

第3は、安全安心に暮らせる兵庫づくり。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中、震災の経験と教訓を次の世代につなぐ取組を強化します。特殊詐欺被害対策などの暮らしの安全を守る取組にも力を入れます。

果敢な挑戦で新しい時代をひらく「躍動する兵庫」の実現には、県民の皆様と力を合わせたオール兵庫での取組が欠かせません。どうぞご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長 田沼 政男



新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、世界的な物価上昇に起因する燃油・資材価格の高騰、海水温の上昇や栄養塩の不足による漁獲量の減少など、我々漁業関係者にとって自助努力では解決が難しい大きな課題に直面した年でありました。

このような中、JFグループでは漁業者の所得向上や漁業の持続的発展に資するため、昨年の12月4日にJF全国代表者集会を開催し、「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」をスローガンにしたJFグループの次期運動方針が採択されました。運動方針では、昨今の漁業・JFが直面している課題に対し、「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献」を柱として掲げ、本会がこれまで訴えてきた「三つの防人」の考え方で、JF本来の役割を果たしていくことになりました。漁業を守り、食料安全保障の役割を持続的に果たすため、責任を持って取り組んで参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

さて、兵庫県での豊かな海の実現への取り組みにおいては、「ひょうご豊かな海推進研究会」でこれまでの試験結果を踏まえ、「兵庫県豊かな海創生支援協議会」で施肥に用いる肥料の要件や投入量の目安などを定め、令和6年度より多くの海域で漁業者による肥料を用いた栄養塩類供給が本格的に実施されています。豊かな海の実現に向けて少しずつではありますが着実に前進しております。

本会においても、将来にわたり本県漁業の発展を支えるため、第6次中期経営計画を基に、漁業継続のための改革に邁進し、漁業者の意欲を後押しできる体制構築や、漁業生産の維持向上に向け役職員が一丸となり力強く実践して参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2025年は「乙(きのと)巳(み)年」です。困難があっても紆余曲折しながら進むを意味する「乙」と、再生と変革の意を持つ「巳」の二つの文字が組み合わさると、「努力を重ね、物事を安定させていく」ということを表わすと言われていました。

年頭にあたり、本年が漁業にとって明るく希望の持てる年となりますよう、皆様のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

なごさ信用漁業協同組合連合会 経営管理委員会 会長 村瀬 晴好



新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に対し格別のご高配をいただいておりますことにあらためて厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、元日には石川県能登地方を震源とする大地震に見舞われました。その地震から復興しようとする中、9月には記録的な大雨による河川の氾濫、土砂崩れが相次ぎ、二重災害ともいわれる厳しい状況に直面することとなり、自然災害の恐ろしさを痛感する一年となりました。あらためて被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、金融経済面においては、3月19日に日本銀行は金融政策決定会合で賃金の上昇を伴う形で物価が安定的に上昇することが見通せるようになったとの判断に基づき、マイナス金利政策の解除を決め、金融政策は正常化に向けて新たな段階に入りました。

また、7月3日には私たちの生活と密接に関わりがある新しい「お札」が、20年ぶりに発行されました。新しいお札では、偽造対策が強化された他、お札を識別しやすくするための新たな工夫が施され、肖像もデザインも一新されました。

本会としましては、令和5年度に策定した「中期経営計画」に重点目標として掲げた「収支構造のさらなる安定化」、「漁村地域への貢献と組織基盤強化のための体制整備」等に引き続き取り組んでまいりました。合併発足以来培ってきた新事業推進体制を基本として、貯金から融資推進強化への比重を高め、収益基盤の拡充を目指し、窓口及び渉外での推進による利用者の利便性向上を目的にキャッシュカード、インターネットバンキング並びにクレジットカードの普及率向上に努めるとともに、融資部兼漁家経営相談室を中心とした迅速かつ適切な事業性融資対応はもとより、「漁業者・水産加工業者」、「周辺産業」、「住宅業者」をターゲットとした営業活動ならびに、漁村地域の活性化サポートの実践として、漁業者が参加する「かいぼり」や「親子料理教室」の地域貢献活動の取組支援を行いました。

今後とも、皆様から「愛される浜の金融機関」であり続けるため、本年も役職員一丸となって事業運営に取り組んでまいりまいる所存ですので、引き続きご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

兵庫県漁業共済組合 組合長理事 川越 一男



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

さて、「ぎよさい」は高水温に伴う環境疾病・赤潮等の自然災害による被害や不漁・魚価の低迷などによる損失を補償し、漁業経営の再生産と安定を支える事業として、昭和39年に漁業災害補償法が施行され、昨年、制度創設60周年を迎えることができました。これもひとえに漁業者の皆様のご理解と漁協系統団体、行政庁など関係各位のご尽力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日に能登半島地震が発生しました。家屋の損壊に加え、漁船や漁具の喪失、一部漁港も機能を喪失するなど大きな被害となりました。今なお仮設施設での生活や遠方への避難を余儀なくされ追い打ちをかけるように9月21日台風14号東進による線状降水帯発生に伴う大豪雨災害にて未だに漁業再開の目途が立たない漁業者も多くおられます。共済組合としても一日も早く漁業を再開していただけますよう被災された皆様に改めて心よりお見舞い申し上げます。

また、国際情勢の影響による燃油・資材・漁具等の価格など経費の高騰、更に東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水海洋放出に伴う風評被害など、漁業経営を取り巻く環境は依然として厳しい年でした。漁業経営のセーフティネットとして国の重要な水産施策として位置付けられている「ぎよさい」と「積立ぶらす」への加入は漁業経営を継続する上で欠かすことのできないものとなっております、これからも漁業者の期待に応えていけるよう、事業の円滑な実施に努めて参ります。

令和6年度の推進目標として共済金額326億円、積立ぶらすの漁業者積立額9億2千万円を掲げて普及推進に取り組んでおりますが、今年度残り3ヶ月もその達成に向けて役職員一丸となって加入推進して参ります。

現在、国は「ぎよさい」と「積立ぶらす」について、水産基本計画等に基づいた制度見直しの検討を進めております。その検討にあたっては、漁協系統・漁業者団体と緊密に連携し、漁業実態の変化や、漁業者の意見が十分反映されるよう努力を傾注し、これからも漁業経営の安定と我が国水産業の発展に寄与できるよう、引き続き取り組んで参りますので、皆様の変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

兵庫県農林水産部 水産漁港課長 山下 正品



新年明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、新年を清々しい気持ちでお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。
昨年は、元日に能登半島地震が発生し但馬地域にも津波警報が出るなど、不安な立ち上がりとなりましたが、海の向こうでは、パリオリンピックでの日本人の活躍や、メジャーリーグでは大谷翔平選手がMVPに輝くなど、日本にも大きな夢や勇気を与えてくれました。一方で、長引くロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナにシリアの中東不安、北朝鮮のミサイル発射や核開発、そして米国でのトランプ政権の奪還など、世界中での情勢不安は深刻度を増し、エネルギーをはじめとした物価高騰は、兵庫県の水産業にも大きな影響を及ぼしています。
そのような社会情勢の中で、本県の水産業に目を移しますと、日本海では、昨年11月に北海道産オオズワイガニの不適切な食品表示による影響が生じましたが、松葉ガニ、香住ガニとも安定した需要のもと、盛況なシーズンになることを願っております。瀬戸内海では、ノリ養殖やカキ養殖の盛漁期を迎えています。関係部局や市町との連携協力による栄養塩類の増加対策によって、順調かつ安定した生産により漁期末まで活況を呈することをご期待しています。
県としましても、何より豊かな海の再生を最重要課題とし、国補正予算などを積極的に活用し、皆様とともにできる限りのことに取り組んで参ります。また来年度は引き続き、高水温耐性のあるノリ品種の作出や、マダコ種苗の量産化への技術開発に取り組むほか、新たに低利用魚を用いた加工品の開発支援や、漁労作業の省力化機器の導入支援などの検討を進めていきます。さらに漁港においては、瀬戸内海での津波対策を着実に推進しますとともに、日本海での漁船の大型化への対応を進めて参ります。本年も職員一同、全力で取り組んで参りますのでご指導ご支援をよろしくお願いいたします。
最後になりましたが、令和7年が、皆様にとって実り多い年となりますこととお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター所長 長島 浩



新年あけましておめでとうございます。
皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
この季節には、少し贅沢をしたくなるお正月料理、また忘年会や新年会などで、日本海の松葉ガニ、淡路島の3年トラフグ、播磨灘のカキなど兵庫県産の美味しい水産物を食する機会が増えているのではないかと思います。持続的かつ安定的な供給があつてこそその賜物ですので、漁業関係者の皆様には、年末年始を問わず生産に励んでいただいていることに敬意を表しますとともに、順調な水揚げと操業安全を願っております。
漁船漁業において将来にわたって安定した漁獲を持続していくためには、研究機関による資源調査とともに、デジタルツールを活用した省力的かつ正確な漁業者や漁協の皆様からの漁獲情報の提供により、精度の高い資源評価をすることで、適切に資源管理に取り組んでいくことが求められています。また、藻類や二枚貝類の養殖においては、温暖化に伴う水温の上昇など環境の変化に対応していくとともに、バランスの取れた豊かで美しい海を実現していくことが欠かせません。さらに魚類養殖においては、健全な種苗の安定した確保と適切な魚病診断が必須であり、水産技術センターにおきましては、漁業関係者の皆様のご協力を得ながら、鋭意これらの課題解決に取り組んでいるところでございます。
これからも、安全・安心で美味しい兵庫県産水産物を安定的に供給できるように調査・研究に取り組んで参りますとともに、適切かつタイムリーな情報発信に努めて参りますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
最後に、兵庫の海がより豊かで美しくなり、生産者から消費者まで全ての人が海の恵みを楽しむ一年でありますよう、また、新しい年が皆さまにとって実り多い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 坂本 雅信



あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
振り返りますと、昨年も多くの自然災害に見舞われた1年でした。中でも、1月に発災した令和6年能登半島地震は記憶に新しく、漁業者の大切な生活基盤である漁港がこれまで経験したことのない地盤の隆起により、甚大な被害を受けました。本地震の被害に対し、皆さまには募金や物資の支援などについて多大なご協力を戴いたところですが、被災地では今も漁業関係者のみならず地域住民が一丸となって復興に向けて尽力しており、本会では引き続き皆さまのご協力を得ながら、一日も早い復興に向け、支援して参る所存です。
このほか、私たちの生業の場である海の環境は、変化の一端をたどっており、海水温の上昇などの影響を受け、前浜における漁獲魚種の変化や漁業生産量の減少が顕著となっています。海洋環境は今、「激変の時代に突入した」と言え、JFグループは、この海洋環境の激変に立ち向うべく、自らの役割、使命が大きく問われています。
そのため、我々は昨年12月に全国から約1,000人のJF代表者が参集した「JF全国代表者集会」を開催し、「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献」の3つの取り組みを柱に据えた今後5か年の新たな運動方針をJFグループ総意の下、採択し、総力を挙げて、JFの自己改革を断行することを決議しました。
私自身、日本の漁業にはポテンシャルがあると確信しており、これからの5年間は、まさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。JFグループは、新たな運動方針の下、海洋環境の激変や資材価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制など、山積した課題や困難を克服し、漁業者の所得向上を図るとともに、持続可能な漁業経営と水産食料の安全保障をはじめとした漁業者・国民の負託に応えるべく、組織の総力をあげて取り組んで参ります。
そして、我々は日本の海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業」の振興などとともに、「浜の活力再生プラン」を推進して参ります。併せて、プライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。
JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたいとお願い申し上げます。
最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

浜の笑顔を経済とともに

全国共済水産業協同組合連合会 代表理事会長 楠田 勇二



新年あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、浜の皆様は謹んで新春のお慶びを申し上げます。
平素よりJF共済に格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。
はじめに、2024年元日に発生した能登半島地震をはじめ、これまでに台風や地震等の自然災害により被害に遭われた全国各地のJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げますとともに、未だ不自由な暮らしをされています方々へ、一日も早い復旧をお祈りいたします。
能登半島地震では水産業に甚大な被害を受けました。また、高齢化や漁業従事者の減少、海洋環境の激変に伴う主要魚種の不漁が続くほか、不安定な社会・経済情勢、物価の高騰、ALPS処理水問題など、漁業者やJFを取り巻く事業環境は先行きが見通せず、依然として厳しい状況が続いています。
こうした中、JFグループでは、昨年12月4日のJF全国代表者集会において、2025年からの運動方針「海洋環境の激変に立ち向かうJF自主改革の断行」を決定し、①漁業者を支える事業・経営改革の断行、②組織基盤の確立、③浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献を3つの柱として取り組むこととなりました。その中で、JFの主要事業である共済事業につきましては、「浜のあんしんサポート運動」を積極的に展開し、定着させることにより、組合員・地域住民一人ひとりに寄り添った保障提供を進め、JFの共済事業収入の増大に取り組むことが決定されました。JF共済としましては、2025年は「浜の笑顔を経済とともにJF共済3か年計画」の最終年度として、JFグループの運動方針に則り、「浜のあんしんサポート運動」の展開とさらなる定着を図ることで、皆様の暮らしの保障に万全を期し、事業量目標の必達と保有契約量の維持・拡大に邁進してまいります。
特に、2025年は阪神・淡路大震災から30年となる年でもあり、近年自然災害が頻発・激甚化する中、JF共済の役割は重要性を増していると考え、引き続きJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様は安心をお届けできるよう役員一同取り組んでまいります。関係者の皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。そして、最後となりますが、全国の浜の皆様は操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

突々 淳氏が兵庫県自治賞を受賞



令和6年度兵庫県自治賞受賞者が発表されました。神戸地区において、突々 淳氏（JF兵庫漁連前専務理事）が受賞され、12月24日（火）に神戸市内の会場において表彰されました。心よりお慶び申し上げます。

突々 淳氏（JF兵庫漁連前専務理事）▶

県農林水産業の功労者表彰 ”令和6年度兵庫県水産賞”受賞者決定

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、令和6年12月23日（月）県公館（神戸市中央区）で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF神戸市 原田和弘さん、JF福良 小林新治さん、JF浜坂 川越伸二さんの3名の方が受賞されました。表彰式では斎藤元彦知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。



受賞者の皆様（前列 左から原田様、川越様、小林様）▶

氏名	所属	功績内容
原田 和弘 <small>ほらだ かずひろ</small>	JF神戸市	わかめ養殖業の振興と漁協経営の安定に貢献
小林 新治 <small>こばやし しんじ</small>	JF福良	入札制度の導入によるシラス・イカナゴの単価向上と漁協経営の安定に貢献
川越 伸二 <small>かわごえ しんじ</small>	JF浜坂	沖合底びき網漁業の振興と漁協経営の安定に貢献

（敬称略）

JF兵庫漁連 第49回通常総会 開催

JF兵庫漁連

JF兵庫漁連は12月9日（月）、神戸市内のホテルにおいて、第49回通常総会を開催しました。

開会にあたり、田沼会長より「昨今の漁業・JFが直面している課題に対し、JF本来の役割を果たすべく、全国代表者集会においてJFグループの次期運動方針が採択され、「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」をスローガンに、兵庫県がこれまで訴えてきた「三つの防人（海洋保全、食糧供給、国境・安全）」を柱として掲げることになりました。漁業と水産食料の安全保障を守る役割を持続的に果たすため、責任を持って取り組んでいきたい。

また、第49期の本会事業においては、のり共販では、共販価格が前年以上の高値で推移したことで、計画を大きく上回る結果となりました。一方、加工事業においては、イカナゴ魚の影響を大きく受け、利益幅が圧縮されましたが、全体では計画を上回り皆様へ配当ができる結果となりました。

これもひとえに会員の皆様方のご協力・ご支援のおかげと厚く御礼申し上げます。」と挨拶をされ、続いて来賓代表として、兵庫県農林水産部菅村次長から祝辞を賜りました。



第49期の事業実績は、事業総取扱高366億8千3百万円、経常利益3億2千5百万円（計対比2億7千3百万円増）となり、第49期事業報告、第50期事業計画、役員改選（理事16名、監事4名）等、上程した8議案は全て可決承認されました。第50期においても、漁業者が安心して沖に行けるよう、役職員一同今後も引き続き、漁業の発展に取り組んで参ります。

虹の仲間で森づくり

～神出神社（神戸市西区）周辺で開催～

12月7日（土）、神戸市西区にある雌岡山（神出神社周辺）で「虹の仲間で森づくり」が開催されました。この活動は「豊かな森が豊かな海を育てます」を合言葉に、豊かな海を次の世代に引き継ぐことを目的として、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでおり、今年で18回目の開催となります。県内各地からJFグループ関係者、コープこうべの組合員や行政関係者、企業関係者など約100名が集まりました。

JF兵庫漁連 田中 稔専務理事の挨拶に続き、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」山下 広行会長より作業の注意事項の説明があり、全員で準備運動を行いました。

開会式終了後、ヘルメット姿の参加者は13班に分かれ、ひょうご森の倶楽部の指導員の方々に誘導され、次々に森

に入りました。指導員の方から作業の説明を受けた後、参加者は周囲に気を配りながら、広葉樹や花の咲く樹を残し、常緑樹や蔓性の植物を除去しました。中には少し大きな樹の除去に挑戦されている参加者も見られましたが、周囲に声をかけながら安全に作業に取り組んでいました。約1時間半の作業を終えると、参加者の方から「作業前より日が入るようになった」と嬉しそうな声も聞こえてきました。

除伐作業終了後は、昼食・交流会を行い、締めは、生活協同組合コープこうべ 河端 晶子理事より閉会の挨拶をいただきました。

参加者の皆様には海と森のつながりを体感できる活動になったのではないかと感じています。



田中専務理事挨拶



除伐作業の様子



集合写真

兵庫県水産振興議員連盟役員との懇談会開催

兵庫県漁港漁場協会

11月18日（月）、午後3時から兵庫県水産振興議員連盟と兵庫県漁港漁場協会との懇談会が開催されました。

兵庫県水産振興議員連盟からは、浜田 知昭会長をはじめ副会長、事務局長、幹事の8名の県会議員のご出席をいただき、兵庫県漁港漁場協会からは浜上会長、田沼副会長、北浦淡路市理事（門副会長代理）、事務局長の4名が出席しました。

兵庫県からは、呉田 利之農林水産部次長、山下 正晶水

産漁港課長のご出席をいただき9月6日に開催された第64回兵庫県漁港漁場大会において決議された「漁港漁場整備長期計画の推進と令和7年度予算の確保」など4項目の決議事項の実現に向けて、浜上会長から浜田会長に要望しました。

引き続き、漁港漁場の整備だけでなく、各地域の漁港の課題、資源管理や豊かな海づくりなど意見交換を行い、有意義な懇談会となりました。





”続ける”ということ

兵庫県漁業共済組合 総務部 総務課 真田 恵利

はじめまして、新年あけましておめでとうございます。兵庫県漁業共済組合の真田と申します。新年ということもありますので、私の今年の目標についてお話できればと思います。

私は歩くことが好きで、よく2駅ほど歩いて帰ったり休日に歩きながらカフェを巡ったりと日々行きたいところがあればまず徒歩を選択しています。また、そのウォーキングで消費できたカロリーを知るためにスマートウォッチを着けており、毎日500kcal消費を目標にしています。そのスマートウォッチなのですが、1日に歩いた歩数に応じてバッジが貰える仕組みになっていて、1日5千歩達成、1日1万歩達成…と大体5千歩刻みでバッジが存在し、その中での最高ランクが1日10万歩達成バッジなのです。私の最近の1日の平均歩数は1万5千歩、距離にすると約10kmでそれが10万歩にもなると約70km、例えるならこの兵庫県水産会館から枚方市駅までがそのくらいの距離になります。お気づきかもしれませんが、この1日10万歩バッジを手に入れることが私の今年の目標です。

私は学生時代から全く運動に縁がなく、弱小吹奏楽部と帰宅部しか経験していないため体力も持久力もありません。そもそもウォーキングを始めたのは体重を減らすことが目的だったのですが、最初はそのダイエットをするにあたり何をしようか悩んでいました。文化部出身で慣れていないランニングは選択肢になく、ジムも過去に行かなくなった経験があるので除外、そこで私が選んだのが慣れた動きかつ通勤中にも行えるウォーキングでした。始めた頃はすぐ息が上がりが長距離を歩くことが難しく300kcal消費達成ですら厳しい日々でありました。それが続けていくうちにどんどん体力が付き、歩くこと自体が好きになり、2駅歩くことも苦痛ではなく500kcal消費を普通の感覚にまですることができました。これまで運動に縁がなかった私でも、続けることでここまで成長できるのだなと自分自身に感動しました。

正直1日10万歩達成はできなくても良いのです。これはただの目標でしかなく、この目標に向かってこれまでの努力を止めることなく続けていくことを、2025年は大事にしていきたいです。もちろんそれは運動の習慣だけでなく仕事や趣味などにも繋げていき、充実した1年を過ごしたいと思います。

一次産業現地学習会の開催

淡路地区漁協青壮年部連合会

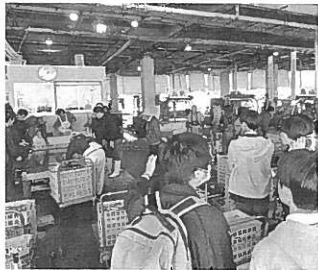
淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：JF 淡路島岩屋）と洲本市農業青年会議による地元の一次産業PR 活動の一環として、漁師や漁業に関わる仕事について知ってもらうことを目的に、11月25日（月）に仮屋漁港で兵庫県立淡路高等学校“花と緑と海のめぐみコース”の2年生 24名を対象に現地学習会が開催されました。

はじめに、学生は仮屋漁協の市場でセリの様子を見学しました。ウオゼやタチウオ、マナガツオなど様々な魚がセリにかけられている様子を学生は興味深そうに見学し、漁師から話を聞いていました。

その後、洲本農林水産振興事務所の桂 基晃氏による淡路の漁業についての講義に移り、淡路で水揚げされる魚や豊かな海づくりの取り組みについて知識を深めたり、漁師の生活について質問をしたりしました。青年部員から漁師の年収について明かされると、その金

額の大きさに学生は盛り上がっていました。

最後、山崎会長は「今日の授業を通じて少しでも漁業に興味・関心をもってほしい。漁師は大変なこともあるがその分リターンもあり、夢のある仕事。また、漁業に関する仕事には漁師だけではなく漁協職員などもある。島を出て大学に進学する人が多いかと思うが、大学を卒業して就職するとき、就職先の候補の一つとして漁業や水産団体のことを思い浮かべてくれればうれしい」と締めくくり、学習会が終了しました。



セリを見学している様子



講義の様子



山崎会長(左)と桂基晃氏(右)

JA丹波ひかみ 最先端技術による栽培管理で イチゴ収穫量の安定化を図る

丹波市の河手大輔さんは、東京の光学機器メーカーでプリンターの開発に携わっていました。報道で農業従事者の高齢化や担い手不足などの現状を知り、長年の研究で馴染みのあるITを活用して農業を活性化させたいという思いから、農家への転職を決意しました。

JA丹波ひかみの子会社である株式会社アグリサポートたんばでの2年間の研修を経て、3年前に独立しました。現在、3棟連のハウスで複数の品種のイチゴを栽培し、安定した収穫量の確保を目指しています。

河手さんのハウスでは、光合成を促進するため、朝方に自動で二酸化炭素を供給するシステムを導入しています。また、天井に等間隔でLEDランプを設置し、日照時間が短い冬に休眠しないよう工夫しており、イチゴの草勢を維持しています。

他にもハウス内の環境を自動で調整する設備として、最先端の培地加温装置を導入しています。丹波市では2月と3月の平均気温が低く、実が大きく成長しにくいと、各プラントのチューブにお湯を通して土を温め、イチゴの栽培に適した13度以上に土温を保っています。これにより、12月から5月までの収穫期間の収穫量が安定し、高品質なイチゴの栽培が可能となっています。JA丹波ひかみ営農経済部営農振興課山本優治さんは「徹底した管理と最先端技術を活用して栽培されたイチゴは、甘く形が良いと直売所で人気を集めています」と話します。

河手さんは、今後も最先端技術を活用しながら高品質なイチゴを安定して収穫できるよう取り組みます。



<https://ja-grp-hyogo.or.jp/>

保健・医療・福祉研究会《拡大版》

12月4日に保健・医療・福祉研究会メンバーや会員生協職員など13人で「認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 地域共生拠点・あすパーク」を訪問しました。

「保健・医療・福祉研究会」は医療生協や購買生協の職員が主なメンバーとなり、意見交換や事例研究のための施設訪問などを行っています。活動の中間支援をしているNPOが、生協の組合員の自主的な活動をより活発にしたり、参加者を増やしたりするために、どのような取り組みをしているのかを知ることを今回のテーマとし、事務局長 飛田敦子氏から「あすパーク」での活動内容や進め方についてお話を伺い、組合員活動について考える機会としました。

地域住民が自立して活動を担い、継続できるように、「グループ化」や「支援スキーム」を用いていることなどを学び、参加者は、自生協で参考にするために積極的に質問をして理解を深めました。

参加者からは「『こんなことやってみよう』という思いがたくさんあるにもかかわらず、実際には動いていない。今日のお話を聞いてしっかりと地域調査をしていることに驚き、とても参考になりました。『スキーム』を参考にできればと思う」「住民参画型の地域づくり、住民主体の社会貢献へのアプローチ、そのために必要なエッセンスがギュッと濃縮した学びの時間だった」などの感想がありました。



事務局長 飛田敦子氏



「地域共生拠点・あすパーク」

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

協同組合人養成講座 1月講座 1月21日(火)のご案内 JF兵庫漁連

開催時間	講座名	講義団体の名称
14:00～	兵庫県漁連流通加工部の事業概要について	兵庫県漁連 流通加工部部長 仲山逸男

保存版

今が旬の魚介で作る!!

簡単!! 魚介レシピ

牡蠣は少量でも栄養価が高く、健康維持や疲労回復に効果的な食品です。

カキフライ 大根おろしソース



材料 (4人分)

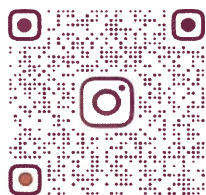
カキ	12粒	(A)	
塩・コショウ	少々	おろし汁	100ml
卵	適量	昆布出汁	100ml
小麦粉	適量	醤油	大さじ 1.5
パン粉	適量	みりん	大さじ 1.5
揚げ油	適量	(B)	
大根	400ml	片栗粉	小さじ 2
		水	小さじ 2

作り方

- ①カキは振り洗いで水気を拭き取り、塩・コショウで味つけする。
- ②カキに小麦粉をまぶし溶き卵をくぐらせて、パン粉をしっかりとつけ170℃に熱した揚げ油でカラッと揚げる。
- ③大根はすりおろしてザルにとり、おろした汁とおろしに分け、トッピング用のおろしを除けておく。
- ④鍋にAを入れて弱火にかけアクを取り、沸いたらおろしを加え、よく混ぜたBでとろみをつける。
- ⑤皿に④のソースを敷き、フライを盛り、おろしをトッピングする。



HP



Instagram

ひょうごのお魚ファンクラブ

SEAT CLUB

表紙の言葉



津田宇水産新造船 進水式

12月15日(日)室津漁協所属津田宇水産の船びき網船「141宝栄丸」、「142宝栄丸」の進水式が行われ、関係者500人が祝福されました。

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金

〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336